

通し番号	3995
------	------

分類番号	15-34-13-05
------	-------------

(成果情報名)ニホンナシ「あけみず」のジベレリンペースト処理による熟期促進
[要約]ニホンナシ「あけみず」は、満開30～40日後に1果当たり20～30mgのジベレリンペーストを果梗部へ塗布することで、収穫期が約5～10日早くなり、満開後101～106日目が収穫適期となる。
(実施機関・部名)神奈川県農業総合研究所 生産技術部 連絡先 0463-58-0333

[背景・ねらい]

ニホンナシ「あけみず」は、本県育成の食味良好な極早生品種である。

そこで、早期収穫による販期拡大を図ることにより、「あけみず」のよりいっそうの極早生特性を生かし、販売の有利性を高めるため、熟期促進剤による早期収穫の可能性を検討する。併せて、収穫摘期の判定についても検討する。

[成果の内容・特徴]

- 1 果実重は、ジベレリンペースト（以下、GA）処理により、満開後91～112日目まで無処理区より約50～60g大きくなり、早期に果実が肥大した（図1）。
- 2 GA処理により、糖度は、満開後106日目を除いて無処理区より低くなったものの、満開後101日目以降であれば、酸味がないこともあり、食味に問題はなかった。
- 3 GA処理により、満開後101日目に果実硬度は、「あけみず」の収穫適期である4.0程度、果実の地色は、地色カラーチャート値3～4に達し、無処理区に比べ、早期に果肉が柔らかくなった（図2、3）。
- 4 成熟時の果実の表面色の変化は、GA処理区の方が無処理区に比べ早く、収穫適期の判定がし易いと思われた（図4）。

[成果の活用面・留意点]

- 1 GA処理により、収穫適期の期間が無処理より短くなる。
- 2 GA処理により、満開後112日目以降、果実の表面色が5以上の過熟になり、水浸状果及び裂果の発生が助長される（図4、5、6）。

[具体的データ]

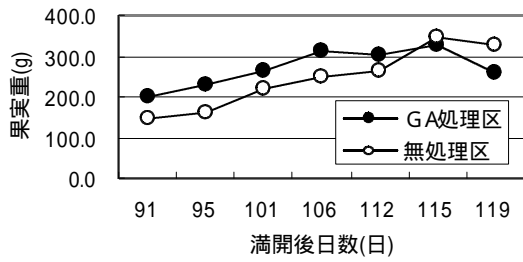


図1 GA処理による「あけみず」の果実重

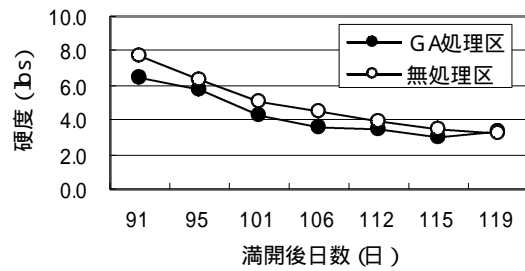


図2 GA処理による「あけみず」の果実硬度

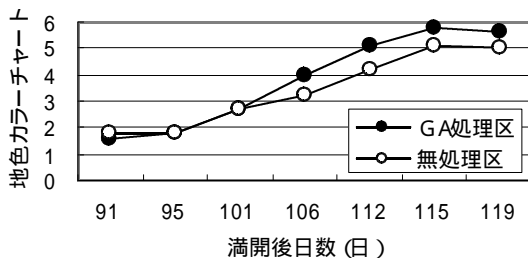


図3 GA処理による「あけみず」の地色

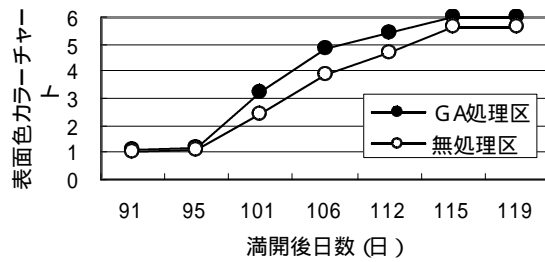


図4 GA処理による「あけみず」の表面色

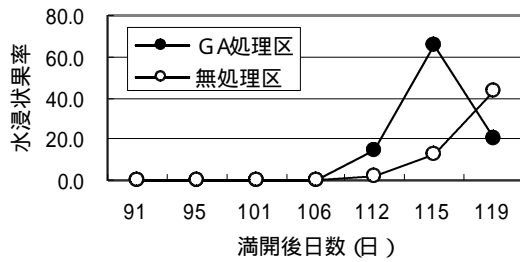


図5 GA処理による「あけみず」の水浸状果率

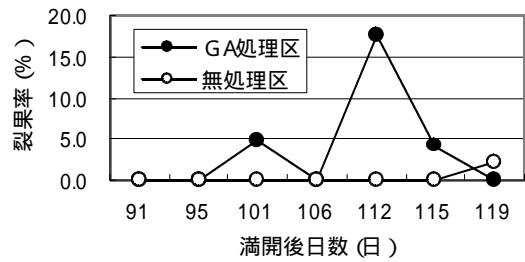


図6 GA処理による「あけみず」の裂果率

[資料名] 平成15年度試験研究成績書(果樹)

[研究課題名] ニホンナシ「あけみず」の早期収穫の検討

[研究期間] 平成14～15年度

[研究者担当名] 川嶋幸喜、柴田健一郎、北尾一郎